

退任のご挨拶



町立沼田厚生クリニック 院長 鳥本勝司

この度、令和8年3月末にて定年により退職し、沼田町を離れる事となりました。平成21年10月から沼田町勤務開始以来、約16年半が経過しました。希望して沼田町を転任地を選んだ理由は、以前小樽での勤務歴が有り、沼田町に興味を持っていた事（搗米業の沼田氏）。地平線が見える土地に住みたくなかった事（前任地上川町から見える空は狭かった）。地理的位置が北海道の中央部に近く、交通利便性が高かったからです。

着任当初は毎週木曜日に旭川厚生病院から外科医1名の外来派遣を得て助かりました。当時の病院施設は懐古的で、私が幼少期に経験した入院環境を思い出しました。診療に関しては、当然ながら最初から外科に毎日患者さんが来る訳もなく、初仕事は多分内科入院患者さんへの栄養管理目的の点滴ルート確保だったと想います。その後、徐々に外来患者さんが来る様になりました。外傷処置、一部整形外科疾患の診断・治療、周辺の医療機関・老人介護施設関連への診療情報提供業務が増加し現在に至っています。

在任初期は、特に入院患者数減少により運営が厳しかったため、病院をクリニックへ規模縮小し、それによる病院職員の大幅な減員と配置転換により乗り切るしか有りませんでした。この改革には議員さん、役場の方に多大なご努力・ご支援を頂き、また町民の方への影響がありましたが、この方策で現在はほぼ計画通りの運営となっています。

沼田町の感想ですが、萌の丘からトムラウシ岳が見えた事。トトロ峠から田植え時期直前、落日間際に現れ、眼下に広がる夕日輝く水田が見える事に感動しました。雪の深さと「夜高あんどん祭り」には驚きました。また、新クリニックの「あり方」を考えるタウンミーティングで、役場の方、町民の皆さん、コンサルティング会社の方と共に語り合ったのも良い思い出です。

平成31年6月から役場の方のご努力下、当時、建設作業員・建築資材確保が困難にもかかわらず、医師住宅新築・移転により快適な住環境となり有難うございました。クリニック、住宅は刷新されましたが、私の診療スタイルは昭和時代に修得しその後改善が無いため、不適切で不快な思いをした患者さんも多数いらっしゃると思いますがご了承をお願いします。

町民からの外科医に対する期待に叶える事が出来たか不明ですが、診療に関連する最新の医学情報・ガイドライン等を入手し活用してきたつもりです。特に、和風園入所者対応で多岐に渡る外科以外の疾患への診断・治療に勉強が必要となり、結果として間口の広い医師となれたと思います。

私の町立沼田厚生クリニック診療は終了となり、同時に臨床医としてのキャリアも卒業です。丁寧で最大限のサポートをして頂いた歴代町長さん達を始め、議員さん、関連した役場職員さん、消防・警察職員さん、クリニック職員その他大勢の皆様からのご助言・ご協力を頂き感謝しています。また、大きな医療事故も無く職務を終えられました。有難うございました。

今後とも、新院長を含め町立沼田厚生クリニックを宜しくお願い致します。